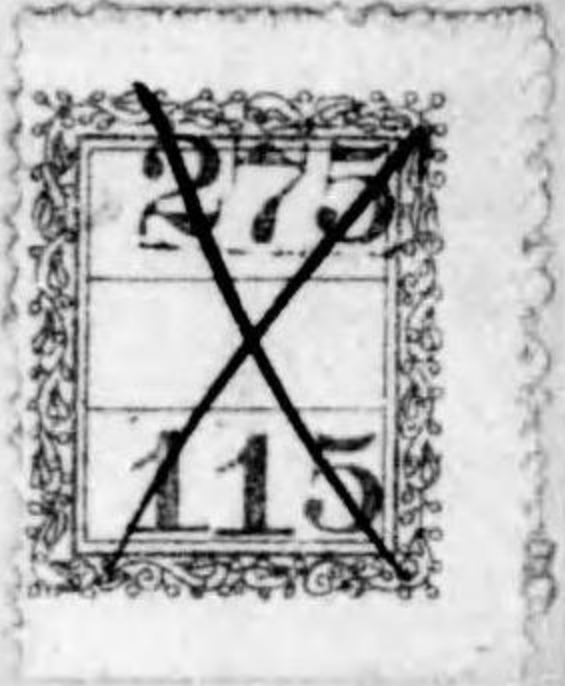


特105

508

三教會同大聖教



始



特105
508

緒言

今回政府主催の三教會同は我が國體及び國民道德と社會問題乃至國民教育等に關する一大問題として凡そ國民は皆此の主旨の如何なる所に存し而して將來其の效果の如何なるべきかに就きて熟慮する必要あるべし

本書は三教會同の顛末を叙し次に我が天理教の教理を述べ以て教育勅語戊申詔書軍隊勅諭の御趣旨を發揮し我が國體を擁護し我が國民道德を振興し以て現代の學校教育及び社會教育の不足を補充し更に進んで箇人に對する人心救濟の大目的を遂行して人類社會を根本より救濟するは我が天理教の目的なることを説

乃大の
2. 9. 5
内交

明せるものなり

三教會同に關する顛末は本教の代表者として同會同に出席せられたる本教幹事松村權大教正に就きて聞きたる所により本教の教理は教祖の遺訓と先輩の教話と道友社に蒐集せる本教教材とによりて編纂せるものなり素より匆卒の作なれば不完全なる所必ず多かるべし讀者幸に之を諒せよ

明治四十五年六月

編者識

目次

第一編 三教會同

- 〔イ〕 神佛耶三教會同
- 〔ロ〕 招待狀を各管長に發す
- 〔ハ〕 華族會館に會合す
- 〔ニ〕 三教者協議會
- 〔ホ〕 個人としての床次次官の演説
- 〔ヘ〕 宗教家教育家及び思想家の大懇談會
- 〔ト〕 内務大臣の挨拶
- 〔チ〕 床次次官の意見
- 〔リ〕 歐米の文明は宗教が根本

- 〔又〕 國家に活を入れよ
- 〔ル〕 宗教的信仰を獲得せよ

第二編 天理教

- 〔イ〕 天啓より成立ちし天理教
- 〔ロ〕 天理の要領
- 〔ハ〕 日の寄進
- 〔ニ〕 上は神に準じて敬せねばならぬ
- 〔ホ〕 教祖は熱列なる愛國者
- 〔ヘ〕 天理教の現況
- 〔ト〕 一般信徒の狀態
- 〔チ〕 結論

三教會同と天理教

第一編 三教會同

日清日露の兩戰役を経て以來、世界列強の我が國に對する態度は俄然一變致しまして、亞細亞の一小島國たりし日本は世界の一等國として認められるやうになりました。臺灣、樺太、朝鮮を合併して其の領土も廣くなりましたが、それご全時に、財政、軍備、教育、實業、外交等あらゆる方面に向つて大なる發展を致しました。かく發展致しまするに就いて、政府當局者の苦心は一通りの事ではありませぬ。殊に大いに外に伸びむさするには、益々其の内を堅實にせなければならぬので、各省ごも種々の計畫をして居られますが、中にも内務省及び文部省に於きましては、地方自治の改良、國民道德の振興等に就いて非常なる苦心をして居られるので、御座います。この地

方自治の改良、國民道德の振興等に就きましては、從來當局者に於いて種々に工夫を凝らされて居ります。それには教育勅語の御趣意を國民一般に徹底せしめなければならぬと云ふことにて、其の實行方法も講ぜられました。又神社崇敬祖先崇拜と云ふことも獎勵せられました。これは國家に功勞あらせられた方々を祀りたる官國幣社府縣郷村社を崇敬し、各自の祖先を崇拜して、報本反始の誠を致し、以て忠孝の美風を盛にし、民情を惇くしようといふのであります。又小田原の聖人と云はれました二宮尊徳翁の報徳教の主義精神を一般人民に徹底せしめて、勤儉の良俗を作り、國本を培養せうとせられました。又感化救済事業を獎勵し之に關する講習會をも開かれました。而して更に戊申詔書の御發布となり、其の御趣意を貫徹せしめなければならぬと云ふので、それが爲種々の紀念事業も各地に興されて居るので御座います。斯の如く政府當局

者は民心を指導する爲に色々施設經營して居られますが、尙之を以て足れりさせずして、更に近頃一の新らしい計畫が内務省から發表せられました。其の新計畫と云ふのは何であるかと申しますと、昨年末より本年始に掛けて、世間の耳目を聳動せしめました所の彼の

(1) 神佛耶三教會同

と云ふ事で御座います。三教會同と云ふのは神道佛道の代表者、耶蘇教の有力者を内務省に召集して、政府當局者と懇談を遂げ、政治家と共に宗教家は宗教家としての立場より、國家社會の爲に十分盡力をさせたいと云ふのであります。然るに此の事が新聞紙上に傳へられますと、政治と宗教とは全然分離すべきものであるのに、それを今更合体させようとするのは亂暴も甚しいとか、或は神佛耶は各其の教義を異にして居るのに、それを一纏めにしよう

云ふのは、水と油とを混合するやうなもので、甚だ無理な注文である。か、種々様々の風説やら非難やらが出ましたが、素より訛傳妄評で、取るに足らぬことであるから、當局者は爾來着々其の準備を進め、二月十八日を以て次の如き

(口) 招待状を各管長に

發せられました。

拜啓愈御安泰奉賀候。陳者今般大臣より親しく御懇談相成度候に付、來る二月廿五日午後三時貴職若しくは貴職に於て特に指名せられたる貴派代表者、東京市麴町區内山下町華族會館へ御參會相成候様致度、依命此段得貴意候。敬具。

内務省宗教局長 斯波淳六郎

何々管長何某殿

追て御參會の有無併に御參會者氏名、來る二十二日迄に本官宛

御回答相成度此段申添候。

此の如き招待状を受け取つたのは神道十三派、佛道五十三派、基督教七派代表者、都合七十六人でありました。さうして大部分は出席すべき旨の返書を出しましたが、東本願寺は思ふ所あつて出席せず、同派に屬する四管長も同じく出席致しませんでした。我が天理教に於きましては、管長閣下に御差間がありましたので、天理教廳幹事權大教正松村吉太郎氏其の代理者として出席せられる事になつて、種々準備の都合もあつたので、二月二十一日に大和を出發せられました。他の各教の人々も大概は二十一日頃には入京致しました。各教共それ／＼各所に於て集會し、政府に對する態度に關して相談會を開きました。が、神道側は最初は各教懇話會の月番なる神田淡路町の御嶽教教廳に會合して、委員を選定し、諸種の打合をなし、尋いで神田錦町の天理教日本橋大教會を會場として會

合し相談を致しました。

かくて定日たる二月二十五日の午後三時頃には、麴町區山下町の

(八) 華族會館に會合

する各教代表者は、或は馬車、人力車、自動車にて引きも切らず。參會者は何れも一先づ休憩室に案内せられまして、豫定の人員が總べて揃ひましてから、一同廣間へ案内せられました。政府側から出席せられたのは、當日の主人役たる原内務大臣を始めこして、齋藤海軍大臣、松田司法大臣、林遞信大臣、福原文部次官、財部海軍次官、竹島陸軍省副官、平沼司法次官、小松遞信次官、床次内務次官、田所普通學務局長、斯波宗教局長、水野地方局長、古賀警保局長、井上神社局長、小橋衛生局長等の大官二十一名でした。さて一同着席致しまするご、原内務大臣は靜に立つて次の如く挨拶せられました。

今回諸君を御招待せし所、斯く多數諸君の御來臨を得、親しく諸

君と懇談を爲すの機會を得たるは、小官の最も満足する所なり。此の御招待に關しては、世に種々の議論あるも、小官が本日諸君の來臨を煩はしたる次第は他にあらず。從來人心を指導し風教を振興するに就いて、諸君が各宗教の立場よりして盡力せられつゝあることは、夙に認識する所にして、又深く感謝する所なり。而して世運の進歩と共に、精神界に健全なる發達を計り、社會状態の改善をなすことに關し、今後諸君の盡力に俟つ所多大なるに依り、諸君と一堂に會して懇談をなすことは、小官の久しく切望したる所にして、即ち本日御招待をなしたる次第なり。諸君幸に此意を諒せられ、將來益々國家の爲め盡力せられむことを望む。

此の挨拶が済みますと、一同は直ちに階下の會堂に入つて折詰の饗應を受け、其の席上に於て、三教各教宗派代表者、政府當局者打混

じ、各々其の所懐を語り合つて、大いに意志の疏通をしたのであります。翌廿六日は此の挨拶に對する決議案を作る爲、三教代表者は再び華族會館に集つて、

(二) 三教者協議會

を開いたのであります。この協議會を開く爲に前夜若くは當日朝、神道側は神田錦町の天理教日本橋大教會に、佛教側は芝公園の増上寺に、又基督教側は京橋銀座通の銀座會館にそれ／＼代表者が集合して、自教の立場から決議案の草案を拵へたので、何れも此の草案を持寄りしました。けれどもそれは三者共別々なのでこれを一つのものにする爲に、神道側からも、佛教側からも、基督教側からも各委員を出しまして、以上三教の委員が別室に於いて相談會を開きました。此の時持寄りしました三案は、

△第一 神道案

- (一) 毎年時を期して三教各宗教派代表者の會同を企て、益々友誼を惇うする事。
- (二) 三教の各教宗派は互に力を致して、益々風教の振興を策り、世界無比の國體擁護に努むべき事。
- (三) 三教各教宗派は互に人道の尊重と世界の平和を圖るべき事。
- (四) 前各條の實行上、互に氣脈を通ずる爲め、三教より各々委員を定むる事。

△第二 佛教案

- (一) 各宗教派は各々其教義を發揮し、皇運を扶翼し、益々國民道徳の振興を計らむ事を期す。
- (二) 政府當局者は政法宗教及び教育の間に於て、從來の阻隔を融解し、其調節を計らん事を望む。

△第三 基督教案

吾儕は今回三教者會同を催したる政府當局者の意志は、信仰自由の大義に基き、宗教本來の權威を尊重し、國民道德の振興、社會風教の改善の爲めに、政治教育、宗教の三者各々其分界を守ること全時に互に相協力し、以て皇室の威徳を翼讚し、時世の進運を助けんとするにあることを認む。是れ吾儕宗教家年來の主張と相合致するものなるか故に、吾儕は其意を諒し、將來益々各自信仰の本義に立ち、奮勵努力國民教化の大任を全うせんことを期し、全時に政府當局者亦此目的の貫徹を力められんことを望み、茲に之を宣明するものなり。

ご云ふのでありました。而して前記三教委員協議の結果、一の成案を得ましたので、愈々代表者の協議會に上せる事に致しました。そこで各教代表者中の最年長たる日蓮宗管長旭日苗師を座長に推

薦致しました所が、老體の爲其の事に堪へられないご云ふので、全師の指名によつて神道側の年長者實行教管長柴田禮一氏を座長として協議會を開き、三教委員の定めました例の草案を提出致します。忽ち満場一致で可決致しました。其決議案は

決議

吾等は今回三教者會同を催したる政府當局者の意志は、宗教本來の權威を尊重し、國民道德の振興、社會風教の改善の爲めに、政治宗教教育の三者各々其分界を守り、全時に互に相協力し、以て皇運を扶翼し、時世の進運を資けむとすることを認む。是れ吾等宗教家從來の主張と相合致するものなるか故に、吾等は其意を諒し、將來益々各自信仰の本義に立ち、奮勵努力國民教化の大任を完うせむことを期し、全時に政府當局者も亦誠心銳意此精神の貫徹に努められむ事を望み、左の決議をなす。

(一) 吾等は各々其教義を發揮し、皇運を扶翼し、益々國民道德の振興を圖らむことを期す。

(二) 吾等は當局者が宗教を尊重し政治宗教及教育の間を融和し、國運の伸張に資せられん事を望む。

この決議案確定後、床次内務次官は會場に入り來つて、個人の資格で「斷りをして置いて、次のやうな意味の演説をせられました。

(木) 個人としての床次次官の演説

諸君、この一堂に會合して、互に斯く相語るを得たのは、私の光榮に存ずる所であります。殊に昨日は大臣の挨拶だけであつて、親しく意見を申述べる所まで行きませんでした。今日又斯く御會合下されて、私の意見を申述ぶる事が出來、諸君の決議事項をも拜承する事が出來たのは、何より喜ばしく存じます。此の決議は全く私の考へて居た所と異ならなかつた所

で、満足至極の次第であります。さて、此の度會同を催しましたる主意は、政府と宗教家と密接に氣脈を通じて、國家の爲に働くこと云ふ事を第一とし、而して宗教家の働きを益々多からしめたいこと云ふに外ならぬのであります。諸君は世間に種々議論があるにも係らず、私共の意志のある所を知つて、かく多數御會同下され、斯様に御決議下されたのは、誠に辱ないことご感謝致します。私は世間から宗教家は左程重く視られて居ないやうに聞いて居ります。此の會合に就いて響いた世の批難は、今日の宗教は全く權威を失つて居る。歐洲の文明は全く科學の力で、宗教の力ではない。此の衰へた宗教を引きずり出して來ること云ふ事は馬鹿氣た事であること云ふのであります。私は世間の此の批難の言に對し、試みに歐洲文明より宗教を除き去つたならば、如何であらうかこと云ふのであります。私は、社

會人類の爲に宗教の必要を認むるものでありますが、之は諸君に對して申す迄もない事で、所謂釋迦に説法でありますから、茲では今更申しませぬ。

又世間では、宗教家は何れも人格劣等で墮落して居る。これに精神界の事を委任したならば、其の弊害は如何であるか云ふのであります。この事は徒に聞流しにならぬ事であり、然るさりながら墮落したものには働け云うても働けない。然るに、宗教家中には、精神界の事は勿論、世の中の事業に盡力せられつゝある方々も多くあります。勿論、全國十萬の宗教家中には、墮落した者もありませうが、多くは働いて居られます。私は或機會に此等の事を調査致しましたから、今後會合を重ねたならば申述べるをりもあらうと存じます。とにかく、是は他山の石として、以て我が玉を磨くべき事を考へます。

又、他の世間の評には、宗教家はごかく引込勝であるご云ふのであります。此點は或はさう云ふ傾があるかも知れませぬ。俗吏の言であるから、誤があるかも知れませぬが、宗教家は専ら精神界の事に關係して居られるから、自然さう云ふ傾があるやうにも思はれます。引込勝では社會の實情に遠ざかるやうになります。宗教家としては、現世界を如何に救ふかご云ふ事を見ねばならぬのであります。現に世の中は如何に働いて居るかご云ふ事を見て、精神界よりそれに向つて如何に薬を投せねばならぬかご云ふ事を考へねばならぬのであります。而して世の進運に歩調を伴はせねばなりません。寧ろ世間より一步づゝ進まねばならぬと思ひます。少くとも全じ歩調を保つて行かねばならぬのであります。社會の状態、精神界の實情はごうなつて居るかご云ふ事を察せられむことを望みます。

此の點に向つては、今の處、宗教家の力が足らぬかと思はれます。私は今日私の位置よりでなく、一個人として申すのであります。昔から名僧智識と云はれた方々は、草鞋履きで活動せられて居ります。政治家もそれと同じ事で、實社會の有様を見て、種々に施設して行くのであります。ただ机の上で書類を調べて、それで政治をするのは、所謂官僚政治であります。諸君は、どうぞ此の實社會に向つて御活動を願ひます。そして吾々政治の方に居るものも、屢々懇談せらるゝやうに御頼み申します。そして我々の政治の方面は、現に如何になりつゝあるか。と云ふ事を宗教家の上より見、又我々俗人は宗教家の上を見て、共に同じ方面に進まねばならぬのであります。今我々政治の方では、青年會、地方改良、感化救濟事業、矯風會等、現代の狀況に照らして、梶をこりつゝあります。此の際諸君も亦、我々の

考へに同情して、精神界より全じ潮流に棹さしてやつて貰ひたいのであります。此の會合が毎年一回の催しがある事なれば、聊か傳道の参考の爲に、我々の調査したる事柄を印刷にして、諸君に御知らせ致しませう。諸君の方でも、其の事業を我々に知らせて下されたならば、互に實情を知り得て、益する所が多からうと思ひます。決議文中に宗教と教育と云ふ事がありました。私一個の考へとしては、實に御全感であります。宗教と教育とは固より混全すべきものではありませぬが、何れも國の爲めにするのであります。國の爲と云ふ上からは、互に力を盡し合はねばなりません。一つ心になつて働いて貰ひたいのであります。

扱又、精神界を救濟するに就き、我々俗人より御願致したい事が、御座います。決議文中皇運を扶翼し、益々國民道德

の振興を圖るご云ふ事があります。宗教の中には平等ご云ふ事を説きますが、この平等のみに偏しますご、忠君愛國ご云ふ事に不都合が生じます。元來平等の中に差別あり差別の中に平等ありご云ふ事を忘れてはならぬご考へます。此の差別あるを忘れて、平等のみを説きまするご、誤を生じますから、此の邊篤ご御注意を願ひます。決議文は此の平等差別を克く了解せられたもので、私の大に喜ぶ所であります。

人心の進歩は科學に基づくものにあらずして、宗教にあるのであります。斯やうに宗教は必要なものでありますのに、この宗教が世の中に重きを爲さないのは何故でありますか。宗教を破壊するものは、宗教其の物にあらずして宗教家其の人であるご云ふ事であります。元來「家」ご云ふ字がつくご、ごかく一つの城廓を築き、其の城廓の中に立て籠つて、他を顧みない

傾がある。宗教家ご云ひ、教育家ご云ひ、政事家ご云ひ、皆其の傾があります。これは面白くない事であります。宗教は、元來人心に具はるもので、無くてならぬものであるのに、宗教家は唯々昔の事ばかり思つて、形式のみに拘泥して、進む事を知らず、世界を忘れるから、世間から顧みられないやうになるのであります。ソコデ世界を悪くするは宗教に非ずして、宗教家であるご云ふことを云はれるのであります。俗人はごんでもない事を考へて居るご思召すかは知れませぬが、御参考の爲迄に申し上げます。ごうぞ此の會合の年々開かれるやうにならん事を希望致します。

床次次官の演説が濟んで散會したのは、當日の午後五時でありました。

扱政府に於いて計畫せられました三教會同は、以上の如くにして、

無事に行はれましたが、今回のやうに、神佛耶の各代表者が一堂に會して、政府當局者と共に胸襟を開いて懇談致しましたのは、誠に古來未曾有の事で、帝國の慶事と云はなければなりません。斯の如き好機會を此の儘に見遁すのは、甚だ残念であるからこの考へから、日頃、宗教、倫理、道德、教育に關係して居られる井上哲次郎、姉崎正治、中島力藏等の諸博士が發起人となられまして、全月二十八月午後五時から上野精養軒で

(へ) 宗教家教育家及び思想家の大懇談會

を開催する事となりました。此の會に出席せられたる人々は學者、宗教家、教育家、政治家、新聞雜誌記者等、朝野の名士二百有餘名でありました。出席者一同揃ひました時、姉崎博士は來會者全般の爲に一々紹介の勞をこられました。午後七時には食堂が開かれましたが、宴酣なる頃先づ發起者總代として井上文學博士は立つて、

今夕宗教家教育家の會合を催したるは、決して内務省の内命を受けたるものに非ず、唯今回内務省が三教者の會同を催したるに就いて、宗教家が多數來會せられたるに依り、之を期として宗教家教育家の懇親を結ぶ爲、此の會同を催したるものなり。而して今夕は神佛基の宗教家と學者教育家の寄り集れる珍妙なる會合にして、決して列國にも見る事を得ざる會合なり。蓋し外國には神道あらざるを以てなり。又世間にては此の會合を以て頗る奇異の感を抱き居るやうなるが、それは今後屢々此の會合を催すに依つて、其等の感をなくする事を得べし。故に此の會合は是非共今後度々催すここに致したし。猶彼の三教會同の時三教者が決議したる事は、單に一場の決議とせず、永久に其精神を以て進み、皇運を扶翼し、國家の爲益々奮勵せられむ事を希望するものなり。

この意を述べられ續いて、實行教管長柴田禮一氏は神道各派を代表し、眞言宗御室派管長土宜法龍師は佛教各派を代表し、日本メソジスト教會監督本田庸一氏は基督教各派を代表し、伊澤修二氏は教育者側を代表して、それ／＼三教會同に對する所感を述べられました。が、與に共に相提携して皇運の扶翼國運發展の爲に、今後益活動せむこの意見に於ては、結局何れも一致して居りました。斯様に致しまして、一全十二分に歡を盡し、各自隨意に散會致しましたのは、其の夜十時頃でありました。

翌廿九日三教代表者から、二十六日華族會館に於て決議致しました決議案を内務大臣へ提出致しました所が、三教代表者に向つて次の如く

(ト) 内務大臣より挨拶

がありました。

本日三教會同諸君が本月二十六日決議せられる決議書を提出せられ、本官に於ても會同諸君が能く本官ご其の感を全しうせられたるを喜ぶ。就ては三教各諸君が今後國家の爲め一層御盡力あらむことを望む。

右の趣旨は諸君へ宜敷御傳へありたし。

此の挨拶は三教代表者委員より、直ちにそれ／＼前日出席したる各教代表者へ移牒致しました。

かくて、各教代表者は直に歸國の途に就くもあり、各所に會合して協議を遂ぐるもあり、神道側は三月に至つて當月の懇話會月番なる染井天理教廳出張所に數度の會合を催し、今後の方針に就いて種々談合いたしました。が、松村幹事は同月七日歸廳して、顛末を管長に復命せられました。

(チ) 床次次官の意見

さて上に述べました所によつて、大畧ながら三教會同の顛末を窺ふ事が出来ようと思はれます。就いては、今回政府に於いて此の會同を催されました趣旨を一層明にする爲に、此の事に最も斡旋盡力せられたる床次次官の意見を紹介して参考の資に供しようと思ひます。

床次次官は先年地方自治問題を研究する爲に歐米各國を漫遊せられた際、歐米各國文明の源泉は科學にあらずして、宗教其の物であること云ふ事を深く感ぜられました。そこで歸朝以來「歐米小感」云ふ書物を出版し、其の他筆に口に、機會ある毎に、熱心に「文化を進めむとするには必ず宗教によらなければならぬ」こと云ふやうに説いて居られます。我が日本國內には宗教の種類は澤山ありますが、其の割合には國民一般に宗教の大切なる事を知らず、少しく地位

あり教育ある人々は、宗教は愚夫愚婦の信ずるものだなど云うて得意になつて居りますが、一度活眼を開いて世界文明の真相を窺つて見ますると、決してそんな獨斷的な事は云へないのであります。これに就いて床次次官が去る四十三年中或る雜誌上に於いて、

(リ) 歐米の文明は宗教が根本

こと云ふ題で述べて居られる所に従ひますること、まづ歐米各國へ行つて、第一に人の注目を惹くのは、到る處都會こと云はず、村落こと云はず、其の宏壯なるキリスト教各派の寺院には、日曜毎に老若男女相携へて禮拜の爲に參詣をする。店はこれが爲に戸を締め郵便の配達もこれが爲に中止になる。甚しきは電車の交通もこれが爲に其の数が少なくなる。こと云ふ壙梅であります。英國に於いては彼の有名なウエストミンスター寺院には國家に功勞ある偉人——豪傑——

道徳家——哲人等を祀つて、國民の精神的元氣の源泉を養つて居り
ます。獨り英國のみならず、獨逸では宮城の中に寺院が附屬して居
ります。現に今のカイゼル陛下は中々の宗教信者で自ら寺院に參
詣もせられるし、又時たま軍艦などに行幸された時なども宗教上
の話の水兵に聽かせられるこの話であります。其の他英國の銀行
では、受取證を書かず、汽車へ手荷物を預けても、チエキ無くして少
しも間違ひはないのであります。實に麗はしい事ではありませぬ
か。これ等は宗教上の信念が土臺となつて居るのであると語り、最
後に

(又) 國家に活を入れよ

と云うて實に次の如く叫んで居られます。

明治の年も四十三となつた此の上更に大いに健全快速な進歩
を遂げねばならぬが、頼むべき維新當時の元勳の餘命果して幾

何かある。死生の間を往來した人々の御蔭で、我々は斯うやつて
居るものゝ實を云ふと御膳立て飯を食うて居る者たるに過ぎ
ぬ。元老は遅かれ早かれ死ぬるに極つて居る。當然國家の大任は
我々後進者の双肩に落ちて來ねばならぬ。諸落ちて來た時に、御
膳立て、飯を食つて居る我々で、果して國家の大任を負ふ事が
出来るか。今日の如き青年の状態では甚だ覺束ないのを悲まざ
るを得ぬが、これと云ふのも全く信仰心の薄弱なる證據で、何れ
も心膽が練れて居ないで、國民の懦弱心に鞭をあて、元氣の作
興を圖らむと欲するには、是非共國民一般の信仰心を高めんけ
ればならぬ。換言すれば、明治年代に更に一大活を入れて、國家の
進運を扶翼せねばならぬ。
實に痛快にして且適切なる警醒的教訓と謂ふべきで、憂國の至
情は言々句々の間に溢れて居ります。我々國民は我が國を愛し

更に之を偉大ならしめむご欲する上から、必ず何等かの

(ル) 宗教的信仰を獲得

せなければならぬのであります。固より宗教上の信仰は自由なものでありますから、佛教を信じようが、耶蘇教を信じようが、之れは全く各人の勝手であります。けれども日本國民としては我が建國の精神と一致し、人類の理想とも一致して居つて、只無限に人間の精神を向上發達せしめて行く事を得るご云ふやうな理想的宗教を求めなければならぬであります。

第二編 天理教

(イ) 天啓より成立ちし天理教

我が天理教と稱する一新宗教は、徳川幕府の末天保九年、大和國山邊郡三島村の庄屋敷にて教祖中山美伎子が、天地に通ずるの至誠を以て神の恩寵を蒙り天啓によりて建設せられたる宗教であります。この天理教に於いて奉祀致します神様と申しますは、天保九年十月二十六日教祖の御身に憑り給うた神様で、其神様の教によつて開かれた宗教でありますから、之を天啓の教と申します。其天啓の教に現れ給うた神様は天理教々典に擧げられました所の、國常立命、國狹槌命、豐斟淳命、大苦邊命、面足命、惶根命、伊邪那岐命、伊邪那美命、大日靈命、月夜見命と申す十柱の神様で、之を總稱して天理大神と申すのであります。而して教祖は之を根本の神、眞實の神とも申されました。この神様は造化の大原萬有の根本にましく

て、宇宙の鎔造人間世界の創設に就きて完全無缺なる働をなし遂げ給ふものなるが故に、天理の大神は則ち眞實の神根本の神であります。それで教祖の教に依まするご天啓の教は人類の内面状態を一變して之を根本的に救済し、謂はゆる心の立替へ世の立替へを行はむごして、其謂はゆる根本の神眞實の神が教祖の肉躰を借りてこれに入込み給ひ、教祖の口を藉りてこれを宣言せられたものであります。此の点から見ると時は其の謂はゆる根本の神眞實の神は、我が國の御祖宗の大神ご全く同一にましますご同時に、併せて世界人類の根本的眞神なりご云ふ事が出来ますでありますから、天理教は國家教祖先教にして、又世界教人類教たる實質を有するものであります。そして其世界人類の根本的眞神たりこの事に就いては、教祖は更に之を理の上より抽象的に天理大神は天理に適ふ心づかひをなさしめ、天理に適ふ行ひをなさしむる原動力な

りこの意を述べられて神は理なり理は神なりごも仰せられたのであります。又形の上より具体的に、此の世は天地抱き合せの世界であつてこの世界に生れたる人類は此の天地の親様から其の神靈を賦り與へられ、親様の肉體の一部を借り受け、又其の親様の懷の中にありて生死して居るのであるご云ふやうに教へられて居るのであります。之から推して見ますご天理大神は宇宙の本体の名稱であり、随つて、宇宙萬有は天理大神の發現したものであります。而して宇宙自然の法則の根本勢力は神の意思なりご云ふ事に取着するのであります。でありますから、天理大神は我が國の祖先の神ごして見ましても、絶対的位置におはします。のであつて、普遍教の神ごして見ましても、亦一般人類に對して絶対的位置におはしますのであります。随つて我御祖宗も天理教の教理より見る時は亦自ら絶対的にして其御子孫たる御歴代の天皇并に今上天

皇陛下は、其の時代々々に於いての現神にして尊嚴無比にをはしますのであります。而して陛下は國民に向つて主權者であらせられ、又社會的に之を喻へて申しますれば國民に對しては、其の御位置は父母たり家長たる貌であらせられます。此の故に陛下の御位置は神聖にして神の特別顯現と仰ぎ奉るの外はなく、陛下と吾々との間は君民的關係に止まらずして親子的關係であります。是れ我が國体の萬國に冠絶して居る所以であります。併しながら、其の吾々に對する天理大神と陛下との御守護の爲され方は同一ではないのであります。即ち天理大神は吾々に向つて、其の無限の御力を以て吾々の生活即ち生存發達活動自由を御守護下され、陛下は法律及び道德を以て吾々の生活即ち生存發達活動自由を御守護下され、大神より貸し與へられたる生命財産自由を法律によつて其の安全を保障し下され、又教育勅語戊申詔書等を御煥發し給う

て、國民を御指導あらせられるのであります。是れ亦我が國体の他に異なる所であつて、他の諸外國の主權者の、單に其勢力が法律上に止まつて、國民の道德上に及ぶ事の出來ぬことは異なつて居るのであります。而して陛下と國民との關係は亦神と人との如き差別があつて、其の國民の崇奉は絶對的であります。されば我々は天理大神の恩恵を謝するご同一の至情を以て陛下を尊敬し奉るのであります。而して天理教の教會は天理の大道を宣傳し神恩皇恩の尊き事を教へ、人心の救濟、國民道德の鼓吹を務むる教化の道場として存立して居るのであります。されば天理教の信徒は教祖の教に本づいて、人心救濟の教理の根本地たる元の地場に甘露臺を建設し、天理の親神を奉祀して人心の救濟に従ひ以て個人の幸福を進め、社會の平和、人文の進歩を助け國運の發展に資し、若國家一旦緩急あれば義勇報公の道を全くする事を心掛けて居るのであ

ります

(口) 教理の要領

我が天理教の教理は教典及び御神樂歌の上に其の大綱を示されてありますが、なほ其の要領に就いて教祖の教へられましたる所を申して見まするに、我々人間の靈魂と云ふものは神様の分靈を與へられたのであつて我が物であり、又我が身体は神様から借り受けて居るものであるのであります。従來我々はこの身体を我が物と思つて居つたのであります。然るに教祖は此の身体を我が物でもなく、父母の物でもなく、實に神様のものであつて、我々人間は神様からこれを拜借して居るのであると説かれたので、これを本教にては「貸物借物の理」と申して居ります。即ち神様から云ふ時は「貸物」、人間から云ふ時は「借物」であります。而して我が身体は神様の直接の御支配に屬して居る借物である證據は、我が心は我が心の

まゝになりますけれども、身体の方は我が心のまゝにはなりません。ぬ。生死疾痛皆神の御心に従はねばならぬといふので分ります。されば人間は神の御守護を受けずしては存在する事はむづかしいのでありますから、常に神を信じて神と一致するやうな心と行とを持たねばならぬのであります。然るに人間は神より與へられたる心の自由によつて悪しき方に心をつかふが故に、多くの人間は何等かの疾病に罹り、禍害を受け、短命に終るのであります。而して其の悪しき心づかひと云ふことは、教祖は之を一つには前生の因縁二つには現世の因縁と説かれたので、其の第一の前生の因縁と云ふのは前生に於いて心に埃を積んで置いたのが原因となつて、之を現世へ持ち越して來たので、去年手入れの悪しかつた種子は、今年の發育が好くないと云ふのと同じ道理で生れながらにして盲目であつたり、跛であつたり、愚鈍であつたりなごの遺傳よりす

るものは、皆此の理に由るものであると教へられて居ります。又縁
 兒にして、道路に捨てられ、又貧賤の家に生るゝ如きも、此の前生の
 因縁です。而して第二の現世の因縁と云ふのは、十五才以來物心を
 知つてからの我が心づかひと行ひとより生ずる罪科であります。
 而して此等の罪科を教祖は埃と云ひ、之を八ツに分けて説かれま
 した。其の八ツの埃とは(一)ほしい(二)をしい(三)かはゆい(四)にくい(五)
 うらみ(六)はらだち(七)かうまん(八)よくであります。

今此の八埃を便宜上漢字に當てゝ示せば(一)貪婪(二)慳吝(三)邪愛(四)
 憎惡(五)怨恨(六)忿怒(七)高慢(八)慾心なるので、此等は皆從來より不道
 徳と爲つて居るので、教育にても倫理にても又他の宗教にても之
 を戒めて居るのではあります。が併し多くは只表面だけの事にて、
 たごひ心には思つて居つても、形の上に強慾な事をせず、貪るやう
 な事をせず、又吝嗇な事をせねば宜しいといふやうになつて居り

ます。又假令沸き返る如くに腹が立ち、怨み骨髄に徹して居つても、
 ギツト之を堪忍する人は、道德家の模範と爲るので、武士道さへ之
 を賞めたものです。又、心の内には、人を見下げ、世を侮り、唯我獨尊の
 心づかひをして居ても、表面に謙遜従順を装うて、甘く切り回はす
 人は褒めらるゝのであります。但し倫理でも他の宗教でも、其の極
 致に至れば、人の心術心事の如何に重きを置くことになつて居る
 ので、全く人の心術心事を論ぜぬと云ふが如き事はありませぬが
 併しそれは極致の事であつて、多くの場合は只一ツの理論丈けに
 止まつて居るので、實際上には大抵心術心事の如何を顧みずして
 人の價値を定むる事に爲つて居るのであります。其の偶々人の心
 術心事の如何を論ずる事があれば、夫は立派な人、譯の分つた人、偉
 い人のする事であつて、普通の人は心附かぬ事で、世に道德を以
 つて立つ人でも其の人自身が今日に於いては多くは只表面丈け

の行爲になつて居るのであります。是人類社會の危機にして、若之を此のまゝに棄て置いたならば、人類は各自の強慾驕慢我儘の爲に、互に相衝突し相迫害して、革命戦争、同盟罷業、物價騰貴の如き政治上社會上の大慘害が續々として起り、天災地變も之に加はつて、物質的文明の進歩と逆比例に非常な不幸に陥るに至るであらうと云ふ所から、天理の大神が教祖の御身に憑り給うて、心の立かへ「世の立かへ」因縁を切る信仰と云ふ、古來世界にない所の一新宗教を開いて下さつたので、然も從來の倫理や教育や宗教の如くに上流中流から教を授けず、故らに大多數の下等社會から始めて、漸次に中流上流に推し及ぼして一切の人類を救済し、一切の人類の心の立かへをさせて、其の一般人類の過去に於ける一切の惡因縁を切らせ、罪と云ふ罪あらせじと云ふやうな境遇に導いて之を向上させ、遂に世に立てかへを爲して、人類社會を化して、謂はゆる黄金

世界にしよう云ふ神の御心である云ふ信仰であります。而して此の謂はゆる神の御心が即ち天理教信徒全体の大理想であるので、教師は勿論一般信徒と雖も日夜此の大理想に向つて猛進奮闘しつゝあるので自分の心の立てかへをして神の御心に近づきたいと考へて、善心になりたいと云ふ事を常に心懸けて居りますので、天理教の教會は今日眞に實際遷善改過の一大靈場であります。此の故に天理教に於ける信仰は心の底から湧き出た誠心誠意の結晶であるのですから、表面上の追従輕薄は全くないのであります。財産は勿論生命をも捧げて奮闘する覺悟は定めさせてあげ、私慾の爲に憤怒し怨恨する事は一切ないので、國家の爲とか公益の爲とかには怒らざるにはあらざれど、夫は敵を憎む爲にあらざして敵を救済する爲に怒るのでありますから、心に怒らずして只形の上に怒る丈けであります。此の故に信者が萬一世人から、迫

害を蒙り損害を蒙る事があつても私の爲一己の爲だけであつたならば、皆自分の過去に犯せる悪因縁の結果と思つて「たんのう」し、又天災天變に罹り病氣に罹る等の如き事があつても、一切之を自分の過去に於いて自ら造れる罪惡の結果と思ひ、教祖の御示し下された「なんぎするの心から我が身うらみであるほごに」云ふ考を以て、少しも騒ぐ事なく愁へ悲しむ事なく、而して其の疾病不幸は如何に大きくあつても、之を以て神様が「大難を小難に代へて下さつたもの」にして現世の境遇を喜び神の恩寵を感謝して其の日を送るのであります。これが即ち謂はゆる天理教の「たんのう」で、低いやさしい廣い柔かな心で、如何なるこども神様を目的にして「人が何事言はふごも神が見てゐる氣をしづめ」云ふ心にて、フウワリと受け込んで置いて結構々々喜ぶのであります。夫故に御守護は格別で、弱い人も強くなり、病める人も全快に至るのであり

ます。況んや病もなほり、家業も程々に出来て無事に暮さるゝに於いては、其の喜びは又一段であつて、如何なる事をも喜んでたんのうするの「天理教信者の特有であります。斯る心持で進み行くのが天理教の信仰上の心づかひ」云ふものであります。さて、斯の如く如何なる境遇にあつても、之を以て神恩として喜び勇み、日夜イソ／＼として専ら自分の爲すべき務を勵み勤め、若し又餘力あらば何程にても人を助け、世の爲になる事をさせて貰ふ。云ふ決心をして之を實行し、公共事業慈善事業、又教會の事業に勞力なり金錢なり身分相應の物を喜捨するのを名づけて「日の寄進」云ふのであります。日の寄進とは、自分の勞力でも金錢でも、之を自分の慾や高慢の爲にせずして、人の爲、世の爲、國の爲、又は教會の爲、人心救済の爲と思つて、清らかな心にて出したものを皆斯くの如く日の寄進云ふので、自分の家業を勤むるのでも、自分の子

供を愛するのでも、之を皆御國の萬一の時の御役に立てさせて貰ふ爲にするのであると云ふやうな心づかひでする事ならばやはり之が日の寄進となるので、自分の利慾や名譽の爲にやる事なれば、百萬圓の財を他に寄附しても日の寄進にはならぬので、却つて埃ごなるのであります。有識の士にはこの道理は直に御分りになるでありませう。而して天理教の信條の如何なるものであるか御分りになりませう。此の心づかひご日の寄進ごの二つは天理教、信仰の表彰であつて、之を實行するによつて、各自の過去に犯せる悪因縁が切れて、疾病は直り、不幸は轉じ、以て實際上に喜び勇むやうな時節が来るのであると云ふ信仰であります。因縁を切る信仰ごは即ち此の事で、たゞ拜むだけの信心や、祈るだけの信心ごは異つて居つて、確實に神様の御守護が其の身に増して来る方法であります。此の故に、教祖は「病の本は心から」と宣言せられました。此の

宣言は實に宇宙間の自然の大法則に一致するものであります。人間の物質的肉体は神の身体の一部を借り受けたものなれば、神の御主宰に屬して人間の心のまゝにならぬと云ふ事は、前に説けるが如くなれば、其の清淨にして無病なるべき神の一部分たる物質的肉体に損傷を生ずると云ふ根本原因が、其の肉体上にあらずして人間各自の意思(即ち人間其の物)の上にかかる事は自ら明かなる道理であります。之に就きて心理學催眠術の専門學者たる福來博士に向つて我が在京の道の友記者が其の意見を聞きました。のに對して、博士は實に學理に一致せる千古の卓説であると云つて、大に之を感歎せられたと云ふ報告が來て居ります。而して知名の學者にして始めて眞面目なる本教の信者ご爲られた廣池博士の如きは本教の教理が學理に一致し若くは學理ご併行して行く丈合理的なものでしかも其信者の實際上の成績が宜しいと云ふ

ここに感心せられて茲に至つたことは勿論なれど其信仰の力が學理以上評論以上のものであること云ふことを實覺せられたことが重大な原因であること云はれて居りますれば人間の疾病は人間の罪惡の結果で人間の心の埃の積んだ結晶と云ふことになるのでありますから、我が天理教にては物質的肉体の變化異狀に對しては、之に應じて物質的醫藥を投じ、若くは鍼灸按摩湯治等理學的治療法を用ひて之が回復を圖ると同時に、根本的治療法として各人に安心立命の信仰を與へて之を治療せしめるのであります。而して其の信仰の表彰は神の慈悲心に本づける心づかひによりて、前に謂へる日のきしんを爲すことにあるので、單に拜むだけ祈るだけの信心ではないのであります。而して其の

(八) 日の寄進

こと云ふ事は教祖が殊に深く教へられた信仰の生命でありますか

ら、更に尙くりかへして其の大略を述べて見ませう。既に前にも一言せる如くにて、日の寄進は其の第一の目的は、自分の因縁の悪しきものなる事を自覺し、埃の多きものなる事を悟つて、其の悪しき因縁を断ち切らせて貰ふ爲に、第二の目的は、其の因縁の深い自分の罪を神様が御ゆるし下さつて、斯くの如くに働かせて下さる事を感謝して、報恩の爲に己の名譽利慾を離れて、善行をする事なのであります。以上二つの目的より天理教徒は常に自己を捨て、同胞社會の爲に勞動する事を吝まないものであります。此の故に、其の行爲は常に人を感動せしむる力があるのです。茲に其の具體的事實を擧げて見ますと、渡邊霞亭氏は其の著天理教側面觀中に、自身の實歴を書いて居られます。それは、ある年の夏の盛りに尾張から美濃へ山越に旅行した時、自分の荷厄介にして居た皮囊を、五十歳位の百姓らしい人が自から請ひうけて喜んで持つてくれた。あこ

で禮物を差出す。私が今日彼方の御荷物を持ちましたのは、神様に日のきしんしたのであります。こいつて禮物を押し返し、名前を聞けば、私は天理教の信者でござります。こ只一言残して行つた。こいふ事なのであります。かう云ふ事實は、外にも澤山あります。天理教徒が能く病人を見舞ひ、貧困者を救ふのは、何れもこのひのきしんの精神によるものであります。が、それならば、ひのきしんは、單に斯くの如き孤立的箇人の關係に於てのみ行はれるのか。こ云ふに、決してさうではなく、家族團體の親睦の如きも、日のきしんの精神にて親子兄弟嫁舅の間、各々我儘を棄て、私慾を棄て、他のこゝろを慰めやう、喜ばせやう。こ云ふ心一つの行に之を維持する事が出来る。こ云ふ教で、内々睦まじ成る程天理教の信者だけである。こ村方の人にほめらるゝやうに。こ云ふ事が極めて大切な事になつて居るのであります。而して更に此の精神を擴むる時は、國家社會よ

り、進んで人類一般の幸福をも増進せしめる性質を有して居る教義であります。本教は成立の日が尙淺くありますから、人類一般の爲にひのきしんをした。こ云ふやうな例はありませんが、然し彼の日清戦争の際に、天理教徒三千名は決死隊を組織して軍夫として出征軍に加はり一死以て君國に報ぜん。こした事もあります。又布留街道外六街道改修に際しましては、九千二百十五人の人夫を派出してその功を竣へ、又和歌山縣新宮町へ流れて居る熊野川が潮流の爲に土砂を押し流し、川口が塞がつて、多くの船が沖に出づる事も出来ずに苦んで居る際に、本教の信徒千餘名は、地方人と協力して、川底を浚へました。奈良より大阪へ通ずる道路を開鑿する爲め廿日間千二百人の人を教會から派出して手傳を致させました。又日清戦役には、人夫を志願したばかりで無く、恤兵の爲めには金壹萬圓を献納し、戦後は壯嚴なる儀式を以て吊魂祭を執行して

その靈を慰め、北清事件の際は、恤兵費の中へ金二千圓を献納致しました。而して曠古の日露戦役に於いては、或は恤兵に慰問に送迎に少からぬ金品を寄贈し國債の應募に關しては、部下教會を督勵して以て國民の本分を盡し或は一大吊魂祭を執行して戦病死者の靈を慰め、遺族をいたはり戦病死者軍人軍屬の子弟の中、學資の乏しきものには、學資補助會を設立して、金壹萬千餘圓を提供し各府縣に分配方を依頼しました。其他石上神宮參詣道に當る布留の大橋を架設し、丹波市警察署新築費、町會議事堂建築費中へも應分の寄附を爲し武徳會、日本赤十字社等の公共團體へも献金致しました。或は又各地の凶歳火災水害海嘯を耳にしては、その都度直ちに金圓を寄贈して罹災者を慰藉した事は數ふるに遑がありません。就中四十三年東京市の水害、全年大阪市の大火災などに於きましては、遺憾なく本教教徒の眞面目を發揮して、進んでひのきしん

を致しました。此等は未だ耳新しい事で諸君の御記憶に残つてゐるだらうと思ひますから、更めて申しませぬ。猶最近の事實として、濟世會に壹萬圓の金を贖金して居ります。此の外國學院大學その他の教育事業に對しては、多大の金を寄附して居ります。これらは全く神恩に對する報恩謝徳の意味からひのきしんをして居るので、固より取り立てゝ云ふべき事ではありませぬが、國家社會に對しても幾分の貢献をして居るのであらうと存じます。先年戊申詔書を御煥發遊ばされた時の如きも、管長閣下よりは、特に聖旨を奉體すべき諭達を發せられ、各地の教會信徒には公共の爲、各地の自治團體と協力してひのきしんの事業を起した向も多々あります。而して今後は益々ひのきしんの精神を鼓吹して民風を盛にし、公共の利益を計る事になつて居るのであります。次に申し述べたいのは、教祖は

(二) 「上は神に準じて敬せねばならぬ」

ご教へられてありまするので、天理教徒は秩序を尊び克く長上を敬ふべき道を守つて居ります。此の教理は長上に對した時は神に對するの心得を以てせなければならぬこの教でありますから、家にありては親に孝行夫に貞節兄弟に從順に國にあつては忠義の人、社會にあつては恭謙懇切の人ならなければ天理教の教理を信奉するものは云へないのであります。我が教祖御在世中は、未だ社會から本教の眞價が認められて居なかつた爲に、教祖は屢々警察に留置せられ給うたのであります。が、教祖は常に命ぜらるゝ儘にすなほに留置せられ給うて八十九歳の御時正月の寒中に櫟本警察署に留置せられ給うた折の如きも、自分を監視して居る巡查の勞苦を慰めむさせられて附添ひの者に命じて菓子を買はしめんさせられた事なごもあります。斯くの如く壓迫を加へて居る

者に對しても露も怨みる所なく、王法に對しては飽く迄從順の態度を執られ、尙この監守の任に當れるものに慰安を與へむさせられたのが、天理教を奉する天理教徒の眞精神となつたので、政治の局に當る人、社會の上位にある人、學者教育家、宗教家、其の他、實業家等、職業の何たるを論ぜず、主義、宗教の何たるを問はず、國家、社會の御用に立つ人に對しては、十分の敬意を拂うて、出來るがぎり其の勞に報ゆる心掛をする様に、ご教へられて居るのであります。其で、吾々天理教徒は、彼の「君臣義あり、父子親あり、長幼序あり、夫婦別あり」と云ふ儒教の教も、此の簡單なる「上は神なり」と言ふ一言の信仰によつて、立派に解決し得るのであつて、治國平天下「云ふ政治上の極致も、亦此の簡單なる信仰によつて實現し得るのであらう」と思ひます。殊に教祖は神に對しては、絶對的信念を有して、皇上に仕へては、絶對的尊敬の態度を持ち、借物の教理によつて我が生命財

産のすべてを以て、之を神明と皇土との御貸物となし、すべての疾病不幸は此の借物の教理を忘れて八埃を作りし結果であること教へられてあるから、天理教で救済せられた人々は、神明と皇土との御恩を知らぬ者はないのであります。而して又取り分け、

(本) 教祖は熱烈なる愛國者

であらせられました。

「日本見よ小さいやうにおもたれど、根が現はれば恐れ入るぞや」
「おなじ木の根と枝とのことならば、枝はをれくる根はさかぬで
る」

こは教祖の我が祖國に對して之を賞揚せられたる讚歎の歌であつて、日本を以て世界の根本であること見て居られたのであります。我が日本は自發的文化の上に、古くは印度支那近くは歐米各國の文物制度を吸収して、而して、後に燦然たる文明の花を開くに至つ

たのであります。が、教祖は其の理由を説明して、日本は根であつて各國は枝である。花は先枝先に咲くが何れ遂には地上に落ち來つて其の根を養ふものであること、斯ふ云ふやうに仰せになつて居られたのであります。平田篤胤先生は其の著「童蒙入學門」の中に、
「それ、皇國は神眞の本城、大陽の初めて出づる所、國土の始めて立つ所、固より大地の元首、而して萬法の根本なり」
と云うて居られますが、教祖も亦全様の信仰を有して居られたので、彼の根本枝葉に關する比喻の深き意義に至つては他日改めて説明いたします。

(へ) 天理教の現況

さて、我が天理教は天保九年教祖が神命を受けて教を立てられてより、今年に至るまで七十五年を経て居ります。が、本教獨立の許可を得てからは僅に五箇年を経て居るに過ぎませぬけれども、其

の布教の地域は、内地は勿論、臺灣、朝鮮、滿洲、支那より、遠くは英國にも及んで、英米人の信者も既に數十百人に達し、地位名望ある人々も續々入會し、全國に參千の教會と二萬有餘の教師と四百餘萬の信徒とを有して、日々に隆盛に赴きつゝあるのであります。而して本教の事業として、教師養成の目的を以て天理教校を設け、一年を二期に分ち、每期三百名の入學を許可し、教義科を授け、別に天理中學校を於いて、目下三百五十名の生徒を養成し、無告の孤兒を收容して、教養する爲には、養徳院を設立して、博愛の實を擧げて居ります。さて本教の傳道方法は、前にも述べたるごとく、先谷底から救へよと云ふので、社會の谷底即ち病めるもの、貧しき者、賤しきものに向ひて、先救濟の手を下して、徐々に進めて行くものであります。から、今日は既に大なる發展をして居ります。けれどもその割合には社會の注意を惹いて居ないのであります。偶々社會の注意を惹き

まして、未だ能く其の真相が明瞭になつて居ない爲に、ごかく一種の迷信的宗教の如く誤解されて居るのであります。けれども今日に於ては、既に専門の學者にして、内外比較研究の結果、十分に本教の價値を認めて居る人も出來て居るやうな次第で、虚心に公平に此の天理教の教理と實際の遣り方とを見且つ聞いた人は、何人も必ず讚嘆の聲を發せずには居られぬのであります。昨年十月、在郷軍人會理事龜岡少將が天理教校に於いて演説せられました。一節に、

私は此の地に來て、實地の狀況を見、其の雄大なる規模と其の人の深き敬虔の念に満ちて居るのには如何にも感激致しました。我が國に斯の如き生々活潑なる信念を有して居る天理教の存在する事は誠に心強い次第で、本教の教理を以て在郷軍人の精神を陶冶し、信念を篤くし、軍隊と教會と兩々相俟つて、眞に國

家の柱石となりたいたいものであると存じます。

と述べて居られます通り、天理教信徒は一般に深い敬虔の念に満ち、其の教理は國家の干城たる軍人を始めとして、一般國民の精神的教養をなし、忠君愛國の本義を發揮せしむる力に富んで居るのであります。

(ト) 一般信徒の狀態

教祖の人格と感化によつて慈悲親切の風が上下普く行き渡り、随つて一般信徒は特に犠牲的觀念に富んで居る所から、從順謙遜にして奮闘努力の元氣も旺盛を極めて居るのであります。是を以て、何れの地方でも、天理教の信徒と云へば、官吏町村吏員を敬ひ、長者を尊びまして、納税の義務などを怠るやうなものはなく、實にすなほなものであります。されば何れの旅行團體でも、汽車電車の乗降には、随分先を争うて、押し合ひ突き合ひして混雑するのであり

ますが、天理教信徒には決してかゝる無作法なことはないのであります。現に大祭の時などに、數萬の信徒が丹波市の一小驛で乗降するを見るのに、何等の混雑もなく各々禮を重んじて、老幼を先にし婦人を先にして一と汽車乗り後れても慌て騒ぐ事はなく、人様を先にかへらせて上げれば結構であること云つて、互に譲り合ふやうなことであります。又丹波市にある信徒の詰所では宿泊の勘定書もなく、帳簿もなく、たこへば、詰所の賄が一食十錢と定まつて居れば、各自に自分勘定をして事務員に渡して歸つて行くのであります。又數百人の集合した所であつても、大小便所を汚すものもなく、又入浴や飲食の前後を争ふものもなく、靜肅敬虔にして、上下各々其の分を守り、禮を重んずる風は、如何なる人も之を感じぬものはないので、是迄内外諸名士の來訪せしものも、何れもこれには讚嘆して居られるのであります。されば斯くの如き性質の信者が若

軍人となり、職工となり。店員となり、雇人となり。爲つたならば、其の軍隊工場商店等は必ず平和安泰にして、同盟罷業などは夢にも起らぬでありませう。既に東海道六合驛(舊小山驛)の富士瓦斯紡績會社には、信者の職工が數百人一團を爲して居つて、同工場内に設置しての模範となつて居ります。どうか有志の方は同工場内に設置してある天理教鮎澤宣教所に就いて、其の實況成績をも聞き取つて下さるやうに願ひたうございます。次に、之と同様の例は、現に横濱ドック會社製罐部の職工二百八十餘名が信者になつて、立派な職工の模範となつて居るのであります。而して、此の事は同部監督中山久五郎氏に御照會下されば分ります。是等の實例は既に全國各地にもあります。か、今は其の著しい一二を紹介するだけであります。どうか、經世の士は能く天理教の真相を御究め下さるやうに願ひます。

(チ) 結

論

宗教の國家社會に必要な事は素より論ずるに及ばぬ事であり、ますが今回政府の主権にかゝる三教會同の擧は、政府が宗教を尊重して、宗教在來の權威を一般國民の間に紹介せられたものごして、特に之を感謝せざるを得ませぬ。之れに就いて我が天理教は我が國體を擁護し、尊皇愛國明倫の大義を闡明して、國民教育及び國民道德の進歩に資し、將來に横はれる同盟罷業其の他不祥なる諸種の社會問題を未然に防ぎ、又之を解決し得べき素質を有して、既に之を實行しつゝありますれば、本教の信徒は、其の眞摯着實にして、人を目的とせず、社會の風潮世人の譏笑を意に介せず、神を目的として、至誠奮闘の生々潑潑たる日のきしん的行爲によつて國運の發展を期し、教育勅語、戊申詔書、軍隊勅諭の御精神を遺憾なく貫徹し奉り、三教會同の決議の主旨を發揮して、神明と皇上帝とに對し

六〇
奉り聊か萬分一の報恩をさせて貰へる事。今日より期して居るのであります。願はくは世の本教未信者の人々も。本教々理の純正なる所を味はれて、一列に神の救済を蒙り、忠良の國民として世に立たれむことを希望致します。

明治四十五年六月二十日印刷
明治四十五年六月廿五日發行
大正二年八月二十日訂正再版

發行兼編纂者

奈良縣山邊郡丹波市町大字三島八拾番地
道友社編輯部

右代表者

増野正兵衛

印刷者

大阪市南區安堂寺橋通一丁目一番地
濱田正夫

印刷所

大阪市南區安堂寺橋通一丁目一番地
濱田日報社

275

115

終

